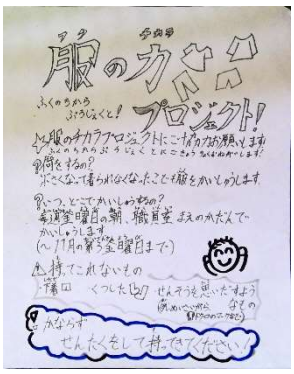
＜学校名＞　鴻巣市立箕田小学校
＜所在地＞　埼玉県鴻巣市箕田４０８
＜電　話＞　０４８－５９６－０３１８
＜本事例の特徴＞
　日々、目まぐるしく変化する世界、この世界を生きていく子供たちにとって、「知る」ことが国際理解の第一歩であると考える。毎日のように報道される数々の戦争や紛争、学校に行きたくても行くことができない子供たちもたくさんいる。住む場所を奪われ、生きる権利を脅かされている人々がいる。こういった世界の情勢にもしっかりと目を向け、自分の思いや考えをもって生きぬいていける児童の育成を狙いとして、日々の教育活動の中で、数々の取り組みを行っている。

＜具体的な取組や成果＞
①一番近いお隣の国「韓国」を知ろう【５，６年】
　埼玉韓国教育院による出前授業
　韓国の文化を知り、我が国日本と似ているところ、異なる点などに興味をもった感想が多く見られた。パソコンで調べ、ハングルで感想を書こうとする児童も多かった。

②「難民」ってどんな人？　服の力プロジェクトに参加
【出前授業：５，６年/プロジェクト：全校児童】
“届けよう、服のチカラ”プロジェクト：ファーストリテイリングが、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）と取り組む、小・中・高校生対象の参加型学習プログラム



「たくさんの思いを服の力にのせて届けよう」を合言葉に
高学年のプロジェクトチームを中心に活動を行う様子
全校児童に声をかけ、サイズアウトした子供服を毎週金曜日朝登校時に回収。
自主的にチラシを作製し、全校児童へ配布。保護者への協力を募る。

③「一粒のチョコレートから…」世界を知る　【５年】

カカオ農園で働く子供たちの動画（ガーナ）、ごみの山でごみを拾ってくらす子供たちの動画（カンボジア）から、「学校に行けない子供たち」の存在を知り、「学校に行けない」とはどんな状況か、そこから起こる負の連鎖について学ぶ。

④アジアの子供たちの絵日記から【全学年】　三菱アジア子供絵日記フェスタ参加

絵日記を通して、次世代を担うアジアの子供たちがお互いを理解し、共に良い未来を気付くことができるようにというコンセプトで行われている取り組みの一つである。

（絵日記のバナーを借り一定期間校内に展示）

アジアの子供たちの描いた絵日記から、異文化を知り、興味をもった日記の感想をかく。自分と同じ年齢の子供の作品に興味をもち、色使いや描き方の違いなどを新鮮にとらえる姿が見られた。日本を紹介する絵日記に挑戦したいという児童も出てきた。昨年度は、外国の子供たちが描いた絵日記を見るだけの取り組みだったが、今年度は、冬休みの宿題の一つにして、日本を紹介する絵日記の参加を募る。

⑤国際理解をテーマとした校内掲示物の充実

朝日小学生新聞を活用し、世界のニュースを取り上げている。

〈これらの取り組みを通して得られつつある成果や教師の思い〉

児童からは、「昨日のニュースに韓国が出ていたよ。」「アジアの絵日記にあったインドの祭りを特集していた。」「買ってもらった本に、児童労働について載っていたよ。」「先生、外国の小学生とオンラインで交流したい！」など日常の会話の中に、外国に興味をもち、世界を身近に感じているような発言が多く聞こえるようになった。他人事だった「世界」の変化に、自分から目を向け、興味をもちはじめている。今後も継続してこういった取り組みを行っていくことで、児童に、世界の扉を開くきっかけをたくさん与えていきたい。自分と違う世界を少しずつ知り、違う意見を受け入れる心や、外国とつながりたいという思いを膨らませていくことは、世界に羽ばたける人を育てる国際理解教育の大切な基盤であると考える。一人一人が自分にできることを考え、自ら行動できる児童像を目標とし、これらの活動を一層深め、充実させていきたい。